

【資料】

平成29年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会

小野 雅子¹

9月21日、農林水産省講堂において、都県との連携による林木育種の推進を目的として、林野庁、国立研究開発法人森林研究・整備機構共催による平成29年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催されたので、その概要を報告する。

本育種分科会には林野庁、国立研究開発法人森林研究・整備機構、関東育種基本区の13都県から合計49名が出席した。また、翌日の9月22日には育種分科会現地検討を行い、長野県にてカラマツ採種園の着花促進試験やカラマツの生産状況等の視察が行われた。

育種分科会（室内協議）

林木育種を巡る最近の情勢について

林野庁から、平成30年度に予算要求を行っている優良種苗低コスト生産推進事業等、花粉発生源対策推進事業のほか、特定母樹の増殖等について説明があった。

森林総合研究所林木育種センター（以下、「林木育種センター」という）からは、林木育種推進計画の策定、花粉症対策品種の開発推進、無花粉スギの品種開発にかかる情報提供、原種苗木の配布について、認定特定増殖事業者への技術指導について説明があった。

林木育種推進計画の策定について

関東育種基本区の林木育種推進計画については、策定から5年を経過し、また、平成29年3月に新たな「森林・林業・木材産業分野の研究・技術開発戦略」が林野庁で策定されたことから、改定案について審議を行い、承認された。

内容については、エリートツリー（第2世代精英樹）の開発と普及の追加、優良品種等の普及については内容の充実、新たな需要創出に向けた林木遺伝資源の探索・収集の追加を主に行った。

林木育種事業の推進について

① 優良品種等の開発

平成29年度に林木育種センターにおいてスギ及びヒノキのエリートツリーの開発を行うこと、また、ヒノキ及びカラマツのエリートツリーのうち指定基準に達すると考えられるものを特定母樹に申請する予定であること等について説明があった。また、昨年度、エリートツリーをヒノキ7系統開発したこと、エリートツリーの中から基準を満たすヒノキ7系統、カラマツ2系統が特定母樹に指定されたこと、また、幹重量の大きい品種をヒノキ6系統開発したことについて報告があった。

関東育種基本区では、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発について、平成29年度は一次検定を茨城県と千葉県で、二次検定を茨城県、千葉県及び愛知県内で選抜された系統を林木育種センターで実施していると報告があった。

② 優良品種等の普及

優良品種等の普及に関しては、林木育種センターでは5カ年の種苗配布計画に基づき計画的な種苗（原種）の生産・配布に努めており、特定母樹についてはスギの原種の配布はすでに始まっているが、今年度からカラマツ特定母樹の原種の配布を開始したこと、今年度末にはヒノキ特定母樹の原種の配布を予定していると報告があった。

また、7月に行われた特定母樹等普及促進会議の概要について報告があり、特定母樹の普及に係る取組状況について説明があった。さらに、花粉症対策品種に関しては全ての都県で普及を進めており、茨城県、栃木県及び千葉県から花粉症対策品種の採種園等の整備状況等について説明があった。長野県からは、カラマツ採種園における高所作業車による採種方法の検討について報告があった。

¹おの まさこ 森林研究・整備機構 森林総合研究所

③ 林木遺伝資源の収集・保存・評価等

林木遺伝資源の収集・保存・評価等については、林木育種センターから林木遺伝資源の収集状況、林木遺伝子銀行110番の取組状況、林木遺伝資源の特性評価、林木遺伝資源の配布状況について説明があった。また、群馬県、千葉県から林木遺伝資源の収集・保存に係る取組状況について報告があった。

④ 成果の広報・普及

林木育種センターから、林木育種連携ネットワークの活動内容について、また、森林管理局・都県が行っている成果の広報・普及活動について報告があった。

各機関からの提案・要望事項

関東育種基本区の都県からスギミニチュア採種園に

おける外部花粉の抑制対策、特定母樹の配布可能時期等について要望等があり、本件について協議を行った。

育種分科会現地検討

室内協議の翌日に、現地検討を長野県林業総合センター等で行った。カラマツの裸苗及びコンテナ苗を生産している生産者の苗畑、長野県林業総合センター内のマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ採種園産の種子を用いた接種試験やカラマツ球果の採取状況、長野県の中箕輪採種園にてカラマツ特定母樹採種園の造成状況や着花促進試験等の視察を行った。